

あまてるじんじゃ

阿麻氏留神社

神社番号 44 式内社

百手祭り：旧2月9日

周辺の神社 住吉神社（45）

アクセス 美津島町小船越の国道382号線沿いに鎮座。近くに古代の港である西漕手（にしのこいで）があります。



神社のプロフィール

古代航路の拠点に鎮座する古社です。祭神のアメノヒノミタマ（天日神）は日神（太陽神）で、厳原町豆殿に鎮座する至高神タカミムスビの5世の孫とされています。

日本書紀によると、5世紀、遣任那使・阿閉臣事代（あべのおみことしろ）が神託を受け、対馬のアマテル・タカミムスビを磐余（奈良県）に、壱岐のツキヨミ（月神）を京都に遷座させています。対馬・壱岐の祭祀集団を中央に移動させる政治的意図があったのかもしれません。

中国には、太陽はもともと10個あり、早魃が起きるため英雄が9つを射落としたという神話がありますが、阿麻氏留神社にも弓的を射る神事が伝えられており、その関連が指摘されています。



周辺の雰囲気・環境など

美津島町小船越は、対馬海峡と浅茅湾をつなぐ海上交通の拠点で、かつて船を陸上げして狭い陸峡部を越えていたことが「小船越」の地名の由来です。

仏教など重要な大陸文化がここを経由して日本に伝わり、浅茅湾側の西漕手は古代の港の雰囲気を残し、また日本最初の寺といわれる梅林寺（最初の仏教伝来地）などの史跡も豊富です。

